

実践事例4【話し方指導】

「かけ算[1]」

自分の考えに自信がもてない、発表するのが苦手という学級の子どもたちを、算数科の学習を通して、豊かに表現できる子にしたい。そのためには、より多くの表現の場を設定し、話し方の指導をしていくことが大切であると考えます。

算数科で身に付けたい表現とは、簡潔・明瞭・的確を目指し、図化、式化、表化、そして筋道立てて話したり、筋道立てて書いたりすることである。

一枚プリントの工夫

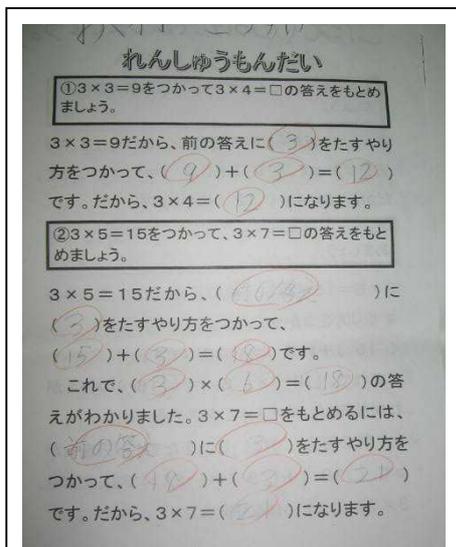
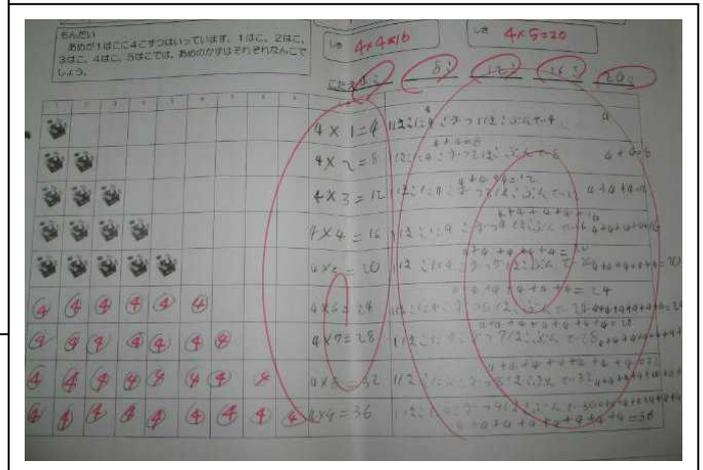
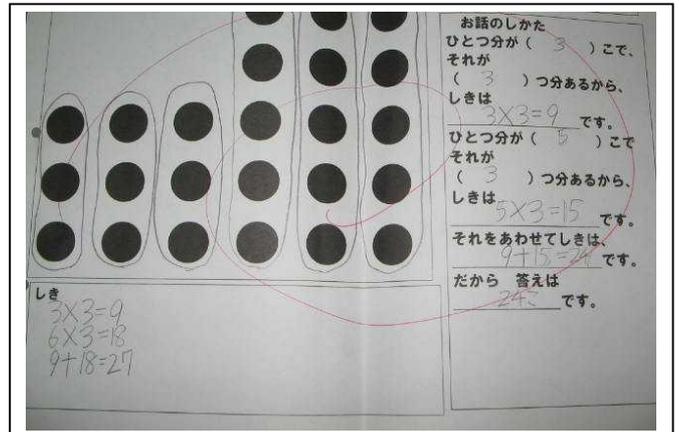
1枚プリントに自分の考えを絵・図・式などで表現し、それを使って自分の考えを説明する。

筋道立てて話せるようにするために、お話のしかたを1枚プリントに位置付けた。

すると、自分の考えに自信をもって話せるようになった。また、同じ方法を使って、いろいろな解き方を考えられる子も多くなった。

かけ算の九九の構成では、同じ形式の1枚プリントを用いた。前の時間に書いた自分の考えが同じように使えるので、問題解決の場面でどんどん書ける内容が増えていくようになった。

また、友達が前の時間に発表した考えを書き込んでおいて、次の時間にまた前の時間のプリントを参考にして、新しい考え方を取り入れていくことができた。



れんしゅうもんだい

練習問題でも、式と答えだけでなく、過程を書かせる問題をつくることにより、考え方を筋道立てて話せるようにした。

話し方がわかると、他の段の練習問題でも、同じ話型を使って話せるようになった。